資料１-１

九州工業大学の近況（2019.6～）について

（１） 令和元年度９月 学位記授与式 を挙行 （p-1）

・9.20 @戸畑キャンパス

・42 名（大学院博士前期課程 21 名、大学院博士後期課程 21 名。うち 33 名は留学生）の学位授与

（２） 110 周年記念フォーラム『九州から発信する新時代の産学連携』を開催 （p-5）

・8.23@大手町サンケイプラザ（東京）

・来賓として麻生財務大臣、伯井文科省高等教育局長、片峯飯塚市長を迎え、260 名を超える参加者

（３） 飯塚市のふるさと納税応援メニューに「九工大 応援寄附金」 （p-9）

・10.1 から飯塚市のふるさと納税（ふるさと“いいづか”応援メニュー）に「九州工業大学情報工学部応援寄附金」の項目が追加。

（４） 学生プロジェクトチーム『衛星開発プロジェクト』によるクラウドファンディング （p-11）

・8.23-11.21 の募集期間で 『九工大から宇宙へ!超小型人工衛星「ふたば」!!』（目標額 100 万円）

・学部生が主体となって、2021 年度打上げを目指す。

・九工大クラウドファンディング第一弾「学生フォーミュラチーム KIT-formula」は 1,043,000 円を集め目標金額を達成（目標額 50 万円に対し 209%）

（５） 無人店舗「con-tech（コンテク）」が 24 時間営業を開始 （p-13）

・2019 年 4 月から実証事業を行っている無人店舗が、9 月下旬より 24 時間営業を開始

・「con-tech（コンテク）」の名称は、学内公募により決定

・30 件近くの施設見学、お問い合わせの実績（4 月以降）

（６） 女子学生のための職場見学バスツアーを開催 （p-14）

・9.10@(株)新菱、(株)タカギを訪問

・工学部の女子学生 8 名が参加、企業の女性職員との交流や、工場見学などを行った

（７） イノベーション・ジャパン 2019 -大学見本市 ＆ ビジネスマッチング- に出展 （p-15）

・8.29-30@東京ビッグサイト

・大学等シーズ展示では 7 名の教員（研究者）が研究成果の説明およびショートプレゼンを実施。

（８）第 7 回アフリカ開発会議(TICAD7)の公式サイドイベントに参加 （p-16）

・8.27-30@パシフィコ横浜

・JAXA との共催で「超小型人工衛星開発・人材育成プログラム」のブース展示

・アフリカ各国と今後の連携について協議。ガーナ環境科学大臣は TICAD7 に先立ち九工大を訪問。

（９）真崎小学校教職員研修会において、『ロボットプログラミング体験』を実施 （p-17）

・8.29@飯塚キャンパス

・川崎町立真崎小学校からの依頼で、小学校教諭（13 名）向けプログラミング体験授業を実施

（10） 飯塚市 ICT 活用教育研修会が開催（主催：飯塚市教育委員会） （p-18）

・8.23@飯塚キャンパス

・飯塚市の小・中学校教員を対象とした研修会。本学教員による ICT を活用した学習についての講義、演習を実施。

（11） 夏期学童保育を実施 （p-19）

・8.1-23@戸畑キャンパス、7.29-8.2@飯塚キャンパス

・本学教職員の児童を対象。九工大ならではのプログラミング教室などを実施。

（12） e ポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアムキックオフフォーラムを開催 （p-20）

・8.21@戸畑キャンパス

・高等教育機関および産業界から会員を募り、教育の可視化や質保証、学生の成長に関する意見交換、相互連携を推進・支援することを目的にコンソーシアムを設立

・コンソーシアムにおける議論や協働を通じて、e ポートフォリオの手法や技術を発展させ、学生自身による学びの振り返りを基盤とした学修成果の可視化によって、学修の質の向上を図る。

（13） 『RoboCup Japan Open 2019』で Hibikino-Musashi@Home が 2 冠 （p-21）

・8.15-18@アオーレ長岡（新潟県）

・@ホームリーグの 2 つの実機リーグで W 優勝

・7 月にシドニーで行われた世界大会『RoboCup2019』では 3 位となり、惜しくも 3 連覇ならず。

（14） 学生プロジェクト「千鳥屋本家賞」授与式を挙行 （p-22）

・8.7@戸畑キャンパス

・2018 年から支援頂いている千鳥屋本家原田社長により「衛星開発プロジェクト」に千鳥屋本家賞の授与

（15） オープンキャンパスを開催 （p-23）

・8.2-3@戸畑キャンパス⇒2 日間で 3,645 名の参加。

・7.13-14@飯塚キャンパス⇒2 日間で 2,282 名の参加

（16） RKB と包括連携協定を締結 （p-25）

・7.29@北九州市役所

・RKB 毎日放送と九州工業大学、北九州市立大学、九州国際大学の各大学とそれぞれ締結。地域の活性化、地域貢献、人材育成への寄与を目的とした連携。

（17） 本学教員がフランク J・マリーナ宇宙航行学賞を受賞 （p-26）

・国際宇宙航行連盟（IAF）による「宇宙科学の研究を促進するために、利用可能な資源を最大限に活用することにおいて卓越性を実証した教育者に毎年送られる賞」で、本学大学院工学研究院 宇宙システム工学研究系 趙孟佑 教授の長年にわたる新興国の宇宙人材育成の功績が評価された

（18） BIRDS-3 サテライト プロジェクト・ISS からの衛星放出に成功 （p-27）

・6.17 に日本、ネパール、スリランカと共同で開発した 3 機の衛星が国際宇宙ステーションからの放出に成功。ネパール、スリランカは国として初の人工衛星。

資料１-２

令和元年度9月 学位記授与式を行いました

更新日:2019.09.26

2019年9月20日(金)、百周年中村記念館2階　多目的ホール(戸畑キャンパス)において、大学院学位記授与式を行いました。16カ国・地域の留学生33名を含む、42名に学位記が授与されました。

○大学院 博士前期課程　21名
　・工学府10名、情報工学府1名、生命体工学研究科10名

○大学院 博士後期課程　21名
　・工学府10名、情報工学府4名、生命体工学研究科7名

◆学長告辞　日本語版はこちらから　/　英語版はこちらから

学長告辞

修了生総代答辞

尾家学長による学位記授与

２０１９年9月２０日

令和元年度９月 学位授与式学長告辞

九州工業大学長　尾家祐二

本日、ここに令和元年度の学位授与式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで修了生を物心両面から支えられました保護者、御家族の皆様のお喜びはひとしおと、衷心よりお祝い申し上げます。

本学は、今年創立 110 周年を迎えることができました。このことは、国、自治体、企業、国内外の大学など多くの組織と、地域のみなさま、6 万人以上の卒業生の皆さん、今、在籍している学生諸君そして本学教職員を含めた多くの方々のご理解、ご支援、ご協力のおかげであると深く感謝致しております。

110 年の時は長く、この間に、世界的にも様々なことが起きました。日本国内も大きく変化し続けました。例えば、日本では 110 年前の 1909 年から我が国の製造業の実態を把握するための工業統計調査を開始しています。その当時の生産額はおよそ 8 億円で、その約半分は製糸、染色などの産業によるものでした。そして、100 回目の調査となった 2008 年の調査結果では、出荷額は約 40 万倍以上の 338 兆円に達し、そのトップは車両などの輸送機械、次いで電気機械、一般機械となっており、それらの合計が全体の 46%を占めています。著しい変化です。また、国内総生産に占める製造業の割合は近年減少し、サービス業が増加し続けています。

(https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougyo/wagakuni/2011.html)

このような変化を、110 年前に想像することはとても困難であったと思いますし、これから 100 年先の未来を予測することも同様に困難です。

社会変革と技術の関係については、ユヴァル・ノア・ハラリが、その著「ホモ・デウス」（河出書房新書）の最後の章で次のように述べています。「テクノロジーは決定論的で」はなく、「同一のテクノロジーが全く異なる種類の社会を作り出すこともありうる」、と。そして、私たちの思考や行動が今日の社会制度等に大きく影響を受けているため、それらの制約を緩和し、行動を変化させ、未来に向けて豊かな想像力を持つことが大切であることも指摘しています。

一方で、大変残念なことに、今もなお、世界中の国・地域間で様々な軋轢が生じています。国家間の問題解決は容易に進みません。しかし、そのような情勢の中、この九州工業大学のキャンパスで様々な国の

留学生諸君が集まり、共に学び、そして協力して生活しています。多様性のある組織における学びは、各人の創造力を豊かにし、新たな考えを持ち、そして新たな行動を起こす機会を与えてくれていると思います。それは、自分自身の新たな発見であり、新たな自分を創造することにもなります。

20 世紀前半に活躍したフランスの哲学者であるアランは数々の有名な言葉を残しています。その中で、よく引用される言葉として、「悲観主義は気分に属し、楽観主義は意志に属する。」（アラン著「幸福論」（石川湧訳）角川文庫）という言葉があります。そして「あらゆる幸福は、意志と自制とでできている」とも述べています。感情はとても大切ですが、それに流されて悲観的になるようなことがあれば、意志をもって、幸福に向かっていきましょう。「幸福論」では、次のようにも述べています。「社会というものは、天気や風の加減で居心地がよくなったり悪くなったりする木陰みたいなものではない。その反対で、魔法使いが雨を降らしたり、お天気にしたりする奇跡の場所である」。

皆さんには、是非、豊かな想像力を持ち、ここで学んだ専門的な知識やスキルを活かして、希望に満ちた未来構築に貢献してほしいと思います。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、今後活躍されますことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。本日は、誠におめでとうございます。

110周年記念フォーラムを開催しました

更新日:2019.08.28

2019年8月23日(金)、大手町サンケイプラザ(東京都千代田区)において、九州工業大学110周年記念フォーラム『九州から発信する新時代の産学連携』を開催し、250名を超えるみなさまにご参加頂きました。

【第1部 記念フォーラム】では、来賓として、麻生太郎 財務大臣、伯井美徳 文部科学省高等教育局長、片峯誠 飯塚市長からご挨拶を賜り、華やかに開会し、尾家祐二 学長から九州工業大学として110周年を迎えることが出来たことの御礼や、大学の近況紹介が行われました。

麻生財務大臣による来賓挨拶

伯井高等教育局長による来賓挨拶

片峯飯塚市長による来賓挨拶

尾家学長による大学紹介

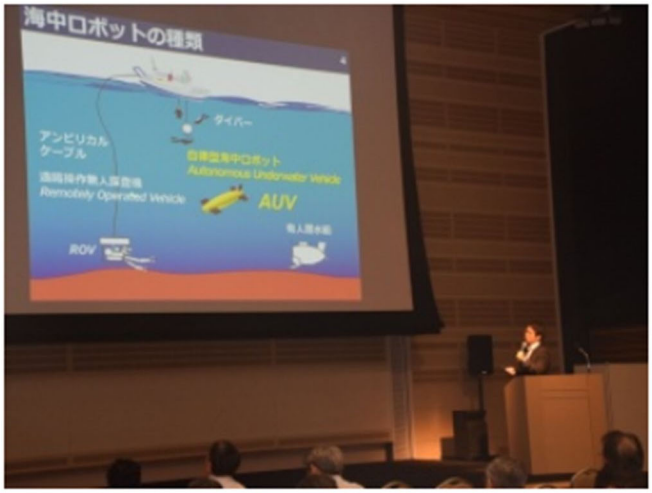
「産学連携が彩る共創環境」をテーマに実施したパネルディスカッションでは、三谷康範 理事をモデレータに4名の企業の方をパネリストに加え、本学で実施している「共同研究講座」について、現状の課題や、今後の産学連携に求めるものなどについて意見交換がなされました。

○パネルディスカッション
モデレータ：三谷康範 理事・副学長(研究・産学連携担当)
パネリスト：宝来正隆 氏(株式会社SUMCO)
福本幸弘 氏(パナソニック株式会社)
長田真太郎 氏(株式会社デンソー)
仲村公孝 氏(株式会社高田工業所)

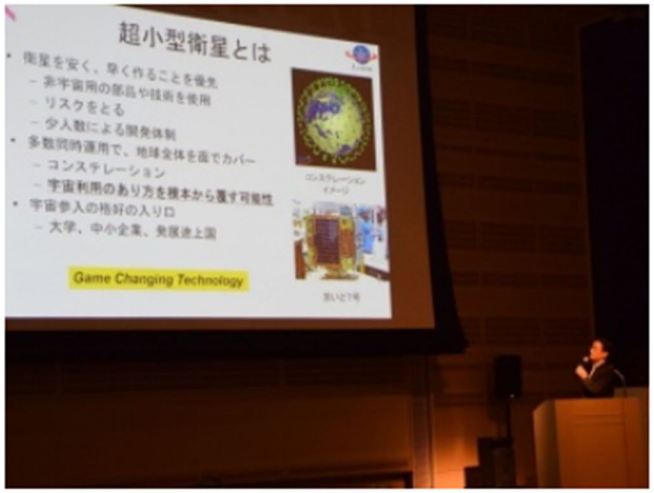
続いて行われた九工大の最先端研究紹介では、「ロボット」「衛星」「AI」「ビッグデータ」「センシング」など九工大の多様で世界をリードする研究を紹介し、参加者は強い関心を寄せていました。

○研究紹介

・若手研究者フロンティア研究アカデミー 西田祐也 助教
　「水中ロボットを用いた超高域海底マッピングに関する研究」
・大学院工学研究院 宇宙システム工学研究系 趙孟佑 教授
　「宇宙への扉を開ける超小型衛星」
・大学院情報工学研究院 生命化学情報工学研究系 山西芳裕 教授
　「AI創薬:医薬ビッグデータと機械学習によるヘルスケア」
・イノベーション推進機構 佐藤寧 教授
　「心地よい自動運転を実現するセンシング技術とアルゴリズム」

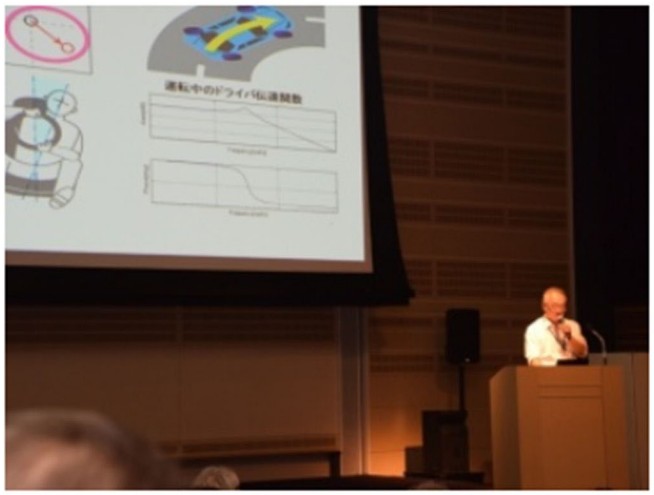


研究紹介(西田助教)



研究紹介(趙教授)

研究紹介(山西教授)



研究紹介(佐藤教授)

場所を移し、来賓ならびに本学の卒業生等を対象として行われた【第2部 感謝の集い】では、 一般社団法人明専会(同窓会) 高原正雄 会長による挨拶ののち、株式会社エイアイキューブ 久保田由美恵 代表取締役社長(情報工学部第一期生)による乾杯のご発声で開会しました。

また、感謝の集いの中で、学生プロジェクトチームによる活動紹介も行われ、展示ブースには学生たちの活動に関する質問などが多数寄せられました。

国立大学法人
九州工業大学

110 ANNIVERSARY TH

九州工業大学110周年記念フォーラム

九州から発信する新時代の産学連携

参加無料

九州工業大学は1909年に明治専門学校として開校し、長きにわたり「技術に堪能なる士君子」を輩出し、現在、産業界・国内外の大学・自治体等との連携活動を通して、未来を思考した実践的な教育研究活動を推進しています。

このたび、創立110年を迎えたこの契機に、本学の多様な産学連携制度や、その関連企業との連携内容及び本学の優れた研究者の取り組みなどを紹介することで、様々な組織との新たな連携を創出する機会として、『記念フォーラム』を開催します。

第2部として開催する『感謝の集い』では、創立110周年を迎えられたことに感謝して、関係のみなさまとの懇談の場を設けるとともに、学生の活躍（学生プロジェクトのデモなど）を紹介します。

また、併せて受験生や保護者の方等を対象とした『入試説明会』を開催し、AO入試や、2020・2021年度入試の変更点などについて説明します。

2019年8月23日（金）

大手町サンケイプラザ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2

「大手町駅」A4・E1出口から直結
「東京駅」丸の内北口より徒歩７分

第1部	記念フォーラム	13:30〜17:00	●対象 どなたでもご参加いただけます。 ●定員 300名（定員になり次第締切）
第2部	感謝の集い	17:30〜19:30	●対象 来賓、卒業生、元教職員、現教職員
	入試説明会	13:30〜15:30	●対象 受験生、保護者、高等学校・予備校等の進路指導担当者

参加申込み

『記念フォーラム・感謝の集い』のお申し込みはコチラ
https://www.kyutech.ac.jp/110th-forum-form/

『入試説明会』のお申し込みはコチラ
https://www.kyutech.ac.jp/110th-nyushi-form/

お問い合わせ

九州工業大学総務課企画総務係
TEL 093-884-3006
MAIL sou-soumu@jimu.kyutech.ac.jp

創立110周年ページ
https://www.kyutech.ac.jp/information/110th.html/

後援：一般社団法人明専会

Program

第１部　記念フォーラム　4F ホール

12:30　受付開始

13:30-13:40　来賓挨拶

13:40-14:15　大学の紹介（近況報告）　■ 九州工業大学 学長　尾家祐二

14:15-14:25　休憩

14:25-15:25　パネルディスカッション　テーマ：産学連携が彩る共創環境

モデレータ ：■ 九州工業大学 理事･副学長（研究・産学連携担当）三谷康範

パネリスト ：
- 株式会社SUMCO　宝来正隆氏
- パナソニック株式会社　福本幸弘氏
- 株式会社デンソー　長田真太郎氏
- 株式会社高田工業所　仲村公孝氏

15:25-15:40　休憩

15:40-16:55　研究紹介
- 『水中ロボットを用いた超広域海底地形マッピングに関する研究』若手研究者フロンティア研究アカデミー 助教 西田祐也
- 『宇宙への扉を開ける超小型衛星』　工学研究院　教授 趙孟佑
- 『AI 創薬：医薬ビッグデータと機械学習によるヘルスケア』　情報工学研究院　教授 山西芳裕
- 『心地よい自動運転を実現するセンシング技術とアルゴリズム』　イノベーション推進機構　教授 佐藤寧

16:55-17:00　閉会挨拶

第２部　感謝の集い　301～304号室

17:30-17:35　挨拶　■ 九州工業大学 学長　尾家祐二

17:35-17:40　来賓挨拶　■ 一般社団法人明専会 会長　高原正雄氏

17:40-17:45　乾杯

学生プロジェクトの展示・デモ
- 衛星開発プロジェクト（戸畑）
  人工衛星の設計･開発･運用を学部生主体で行うプロジェクト。超小型衛星「ふたば」開発中！
- stairs（飯塚）
  アプリコンテストへの出場等を通して、実戦的な経験を積むことにより最先端のICT技術者育成を目指す！
- Hibikino-Musashi@Home（若松）
  ホームサービスロボットの実用化を目指した開発チーム。RoboCup 2連覇&WRS 2つの世界大会で優勝！

19:25-19:30　閉会挨拶

入試説明会　301号室

13:30-14:30　全体説明　■ 九州工業大学 副学長（入試・広報担当）安永卓生

14:30-15:30　個別相談

終了後は、4F ラウンジに個別相談ブース設置

九州工業大学（情報工学部）を応援しよう！

■現行の飯塚市のふるさと納税の応援メニューに「九州工業大学 情報工学部 応援寄附金」の項目が設けられ，寄附金先を大学に特定できるようになります

■令和元年１０月１日：開始

■寄附金の使途：活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び人材育成に向けた産学官連携事業の強化

寄附者 → 飯塚市 → 大学応援補助金として、翌年度以降、九州工業大学に交付

ふるさと“いいづか”応援メニュー

1.まちづくりの推進【まちづくり協議会の活動を応援】
2.産業・経済の活性化【お祭り・観光 新しい産業づくりを応援】
3.教育・文化の充実【未来を担う子どもたちの成長を応援】
4.市民福祉の向上【人にやさしいまちづくりを応援】
5.生活基盤の充実・環境整備【住みやすいふるさとづくりを応援】
6.全事業【なんでもよか！ふるさと飯塚を応援】
追加）大学応援寄附金【産学官連携事業の推進等を応援】

～大学応援寄附金では、飯塚市からの返礼品はありません。～

→ 九州工業大学情報工学部への応援寄附金

寄附額を市の歳入に受け入れた上で、翌年度以降に補助金を交付

お問い合わせ先

■ふるさと納税制度に関して　飯塚市市民協働部地域振興課ふるさと応援係
TEL：0948-22-5500（内線1437） E-mail：furusato@city.iizuka.lg.jp
http://www.city.iizuka.lg.jp/machizukuri/shise/kifu/noze/menu.html

■大学が実施する事業に関して　国立大学法人九州工業大学　総務課社会連携係
TEL：093-884-3004 E-mail：sou-renkei@jimu.kyutech.ac.jp
https://www.kyutech.ac.jp/information/iizuka-kifu.html

国立大学法人 九州工業大学

衛星開発プロジェクトによるクラウドファンディング実施中

更新日:2019.08.23

本学の学生プロジェクトの1つである「衛星開発プロジェクト」が、開発した人工衛星を打ち上げるため、READYFOR株式会社のクラウドファンディングサービスを利用して、JAXAとの契約費用への支援を募集しています。

本学は、寄附金獲得による研究の活性化や学生の部活動の支援を目的として、クラウドファンディング運営会社と業務提携しており、今回は、本学2回目のクラウドファンディング実施となります。

当プロジェクトを応援していただける方々からの温かいご支援をお待ちしております。

プロジェクト概要

『九工大から宇宙へ!超小型人工衛星「ふたば」!!』

●実 行 者:　大谷將壽(衛星開発プロジェクト代表)

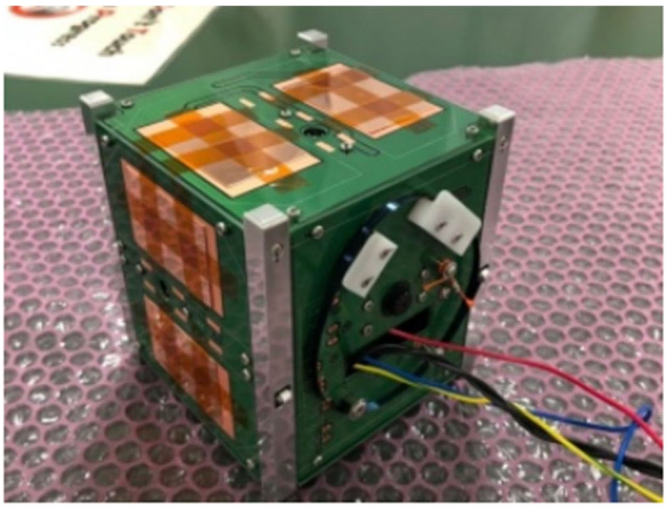
●目標金額:　100万円

●募集期間:　2019年8月23日(金)～2019年11月21日(木)

●概　要:　九州工業大学「衛星開発プロジェクト」は、学部生が主体となって、ミッション決め、設計・開発・試験・通信・運営を行うプロジェクトです。2016年から開発を行っている超小型人工衛星「ふたば」の2021年度打上げを目指しています。

- プロジェクトの詳細・ご支援のお申込みはこちら。(外部リンク:Readyfor HP)
- 学生プロジェクトの紹介はこちら。(明専会学生プロジェクト)

プロジェクトメンバー集合写真



EM(試作モデル)

クラウドファンディング 九工大 衛星 検索

目標金額 100万円！

２０１９年
11/21
まで

九工大の学生団体「衛星開発プロジェクト」では超小型人工衛星「ふたば」を開発中です。2021年度の打ち上げに向けて、クラウドファンディングを始めました。
～応援よろしくお願い致します！～

<Main Mission > ウィスカ検証

「今から宇宙に行こう！」と思ったときに何を持っていきますか？きっとPCやスマートフォンを持っていくと思います。しかし宇宙空間では回路が伸びてしまい故障してしまいます。そこで宇宙でどのくらい身の回りの電子機器を使用することができるかを検証します。

<Sub Mission >姿勢制御

これまで開発した衛星には姿勢を制御する機能はありませんでした。今後、星を観測するミッションを行う際に姿勢の制御は必要になります。そこで「ふたば」では電磁石を用いて、カメラが地球を向くように姿勢の制御を行います。

<Sub Mission >無線通信試験

これまでの衛星ではデータの送受信を行うために基板間に線を取り付けていました。しかし、人為的ミスやケーブルの劣化によって送受信を行うことができなくなります。そこで今回は基板間で無線通信を行います。

FuTaBa
Kyushu Institute of Technology

＜お問い合わせ先＞
衛星開発プロジェクト 代表 大谷 將壽

クラウドファンディングURL
https://readyfor.jp/projects/kyutech-futaba

無人店舗「con-tech」は24時間営業を開始しました

更新日:2019.09.18

本学戸畑キャンパスにおいて実証事業を行っている無人店舗「con-tech」は、24時間営業*を開始しました。土・日曜日、祝日等も休まず営業を継続します。(*これまでの営業時間…9:30～18:00 (平日のみ))

また、24時間営業の開始にあわせて、店舗外観デザインもリニューアルしています。「con-tech」はこれからも、未来思考キャンパス構想の一環として、学内外の様々なアイデア・技術との融合により発展させていきます。

con-tech正面の様子

con-tech背面の様子

女子学生のための職場見学バスツアーを開催しました

更新日:2019.09.18

2019年9月10日(火)に、女子学生(戸畑キャンパス)のための職場見学バスツアーを開催し、工学部の女子学生8名が参加しました。今回は北九州市内にある、(株)新菱、(株)タカギの2つの企業を訪問し、工場内の見学や、座談会にて技術職の女性職員の方とお話をさせていただきました。また、TOTOミュージアムを訪問し、展示を見学しました。

工場見学では、実際に工場の内部に入らせていただき、使われている機械や働いている現場を見学することで、技術職についてより具体的にイメージできるようになりました。また、技術職の女性職員の方との座談会では、仕事内容について、出産や育児といったワークライフバランスの話、その企業に就職を決めた理由や今後の目標などについて、参加者は積極的に質問し、大変有意義な時間となりました。

充実した一日となり、参加者からは「ゆっくりお話ができてよかった」「女性社員さんが楽しそうで良い雰囲気だった」「自分が働くイメージがわいた」などの感想が寄せられました。

(株)新菱の座談会の様子

(株)タカギの見学の様子

TOTOミュージアムで記念写真

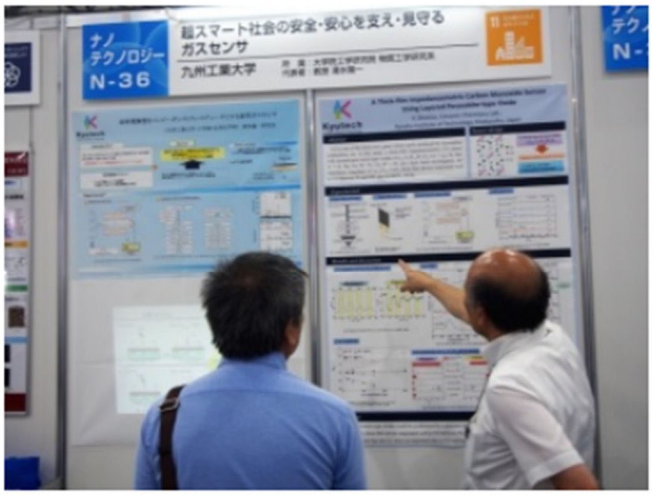
イノベーション・ジャパン2019～大学見本市&ビジネスマッチング～に出展しました

更新日:2019.09.09

2019年8月29日(木)、30日(金)、東京ビックサイト(青海展示棟)において開催されたイノベーション・ジャパン2019に出展しました。

今回、大学等シーズ展示には、以下の教員が出展し、ブース内で研究成果の説明およびショートプレゼンテーションを行いました。

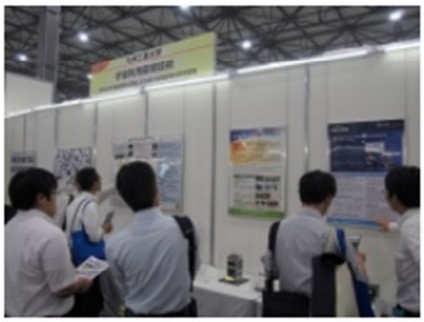
・清水陽一 教授(大学院工学研究院 物質工学研究系)



清水教授ブース内

清水教授ショートプレゼン

また、大学組織展示にも出展し、「宇宙利用環境技術」について衛星の模型を展示して説明を行うとともに、宇宙環境技術ラボラトリー施設長 趙孟佑 教授が「宇宙環境ラボラトリーの紹介」と題し、プレゼンテーションを行いました。



組織展示ブース内の様子

組織展示プレゼンの様子1

組織展示プレゼンの様子2

各出展ブースには2日間を通して多くの来場者があり、本学研究者と企業等の方々が熱心に意見交換を行い、会場全体も大盛況でした。

第7回アフリカ開発会議(TICAD7)の公式サイドイベントに参加しました

更新日:2019.09.24

2019年8月27日(火)～30日(金)、パシフィコ横浜で開催された、第7回アフリカ開発会議(TICAD7)の公式サイドイベントに参加し、JAXA:宇宙航空研究開発機構様との共催でブース・パネル展示を行いました。

本学の超小型衛星開発・人材育成プログラムは、ブースに訪れた複数のアフリカ諸国(ジンバブエ、エジプト、タンザニア、スーダン、セネガル、ウガンダ)の政府関係者等の興味を集めたことから、開催期間中に、ジンバブエ政府・高等教育科学技術開発省大臣とのミーティング、更にウガンダ政府・科学技術発明省大臣とのミーティングも実現し、今後の連携について具体的な協議を行いました。

また、8月28日に満員の会場で行われた内閣府主催の「アフリカ宇宙フォーラム」では、本学の趙孟佑教授がパネルディスカッションの議長を務め、宇宙の平和利用と今後のアフリカ開発支援について活発な意見交換が行われました。

今回、本学を卒業したエジプトの元留学生も母国の政府高官とともに来日しており、本学の超小型衛星開発による国際教育プログラムがアフリカの人材育成に大きく貢献していることを実感できた4日間でした。

ブースの様子

ポスター(左:九工大)

ジンバブエ高等教育科学技術開発省大臣とのミーティング

ウガンダ科学技術発明省大臣とのミーティング

川崎町立真崎小学校教職員研修会において、『ロボットプログラミング体験』を行いました

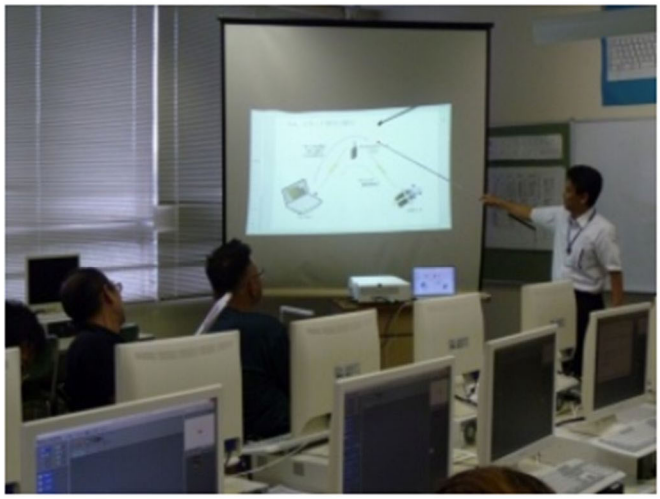
更新日:2019.09.03

2019年8月29日(木)、福岡県田川郡川崎町立真崎小学校から教職員研修会におけるプログラミング体験授業の実施依頼があり、「クワガタロボットプログラミング教室」を行いました。

2020年プログラミグ教育必須化の準備のため、金子祥二校長をはじめ13名の先生方が受講され、プログラミングによって物を操る喜びを経験させることの重要性を実感されていました。

参加者の皆さま、関係の皆さま、ありがとうございました。

テーマ:『ロボットプログラミング体験』
参加者: 真崎小学校教諭　13名
講　師: 荒川等〔飯塚キャンパス技術部・技術専門員〕
　　冨重秀樹〔飯塚キャンパス技術部・技術専門職員〕
　　冨重真理〔飯塚キャンパス技術部・技術専門職員〕
補　佐: 情報教育支援士実習生　2名



開催の様子1

開催の様子2

飯塚市ICT活用教育研修会が開催されました

更新日:2019.09.09

2019年8月23日(金)、飯塚キャンパスのインタラクティブ学習棟「MILAiS」において、飯塚市の小・中学校教員を対象とした「ICT活用教育研修会」(飯塚市教育委員会主催、九州工業大学共催)を開催しました。

高大接続・教育連携機構STEM教育推進部門 西野教授の開会挨拶後、大学院情報工学研究院 知的システム工学研究系の中茎教授が「micro:bitの基礎と応用～Pepperとmicro:bitで学ぶIoTの世界～」と題し、講義と演習を行いました。次に学習教育センターの近藤助教が「ICT機器を活用した協調学習の実際について」と題し、講義及び演習を行ないました。

今後も、九州工業大学の特性を生かした地域との関わりや貢献を実践していきます。

研修会の様子1

研修会の様子2

夏期学童保育を実施しました(戸畑キャンパス)

更新日:2019.09.02

小学校の夏休み期間中(2019年8月1日(木)～8月23日(金))、戸畑キャンパスで、男女共同参画推進室では、学童保育を実施しました。

本学教職員の児童(小1から小6まで17名)は指導員と共に、学習、段ボールや松ぼっくりで工作などを行い、連日の暑さで外遊びを控えている中、体育館では風船でバレーボールや紙飛行機を飛ばしたりと元気いっぱいに過ごしていました。また、今年度はプログラミング教室の開催日数を増やし、5日間実施しました。

参加した子供たちからは、「毎日楽しかった」「また来年も参加したい」と感想が寄せられ、にぎやかなやかな夏の思い出となったようです。また、利用した職員からも、「子供が元気に有意義な時間を過ごすことができ、安心して業務を務めることができました」等の声が届きました。

夏期学童保育を実施しました(飯塚キャンパス)

更新日:2019.08.09

男女共同参画推進室では、飯塚キャンパスにおいて夏休み期間中の7月29日(月)～8月2日(金)の1週間、学童保育(参加児童13名)を実施しました。

飯塚キャンパスの学童保育は、実施期間中の午後に「プログラミング教室」を開催している点が大きな特徴で、プログラミング教室の実施にあたっては、本学情報工学部「情報教育支援士養成講座」の修了生(情報教育支援士)の方にご協力いただいています。

また今年は全日、飯塚キャンパスの大学生にも参加してもらい、児童の宿題を見たり一緒に工作を楽しみながら交流をしました。

参加児童は、指導員や大学生とともに学習や工作を行い、また情報教育支援士の指導のもと、プログラミング教室で楽しく学びました。

利用した児童の保護者より「毎日がとても楽しいみたいで来年もまた行きたいと言っています」「1日が終わると明日も行く!と毎日楽しんでいました」との声が寄せられました。

プログラミング教室の様子

体育館(風船バレーボール)

学習保育の様子

体育館で紙飛行機大会

「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」キックオフフォーラムを開催しました

更新日:2019.08.28

2019年8月21日(水)、戸畑キャンパス百周年中村記念館において、「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」キックオフフォーラムを開催しました。

本フォーラムでは、「可視化した学修成果情報を活用して教育改善のPDCAサイクルについて」「可視化した学修成果情報の活用における個人情報の扱いについて」をテーマに、長崎大学の若菜啓孝教授、大阪府立大学の星野聡孝教授、公立千歳科学技術大学の小松川浩教授、本学の林朗弘准教授より話題提供いただき、参加者で議論しました。

当日は、会員校30名の参加があり、質疑応答も活発に行われ、大変有意義なフォーラムとなりました。

開会挨拶(坂本寛 学習教育センター長)

会長挨拶(尾家祐二学長)

話題提供(大阪府立大学 星野聡孝教授)

話題提供(公立千歳科学技術大学 小松川浩教授)

話題提供(長崎大学 若菜啓孝教授)

話題提供(林朗弘准教授)

『RoboCup Japan Open 2019』でHibikino-Musashi@Home が2冠達成!

更新日:2019.08.19

Hibikino-Musashi@Home集合写真

2019年8月15日(木)～18日(日)、新潟県長岡市アオーレ長岡で開催された「RoboCup Japan Open 2019@ホームリーグ」に、生命体工学研究科の学生が中心となって結成している“Hibikino-Musashi@Home”チーム(主指導教員:生命体工学研究科 田向権 准教授)が参加し、実機リーグW優勝の2冠という快挙を達成しました。

@ホームリーグは、家庭やオフィスといった、人間の生活空間で人間と協力して働くサービスロボットの性能を評価するリーグです。ロボットには、人間と自然な意思疎通を行い、周辺の環境を認識し、自ら行動を計画し実行するための、高い人工知能の能力が求められます。近年の人工知能の急速な発展に伴い、@ホームリーグはRoboCupの中では最も巨大なリーグとして成長を続けており、また、企業からの注目度も極めて高く、トヨタやソフトバンクのロボットも標準機として採用されています。

Hibikino-Musashi@Homeは、OPL(Open Platform League,自分たちで作ったロボットで出場する無制限級)と、DSPL(Domestic Standard Platform League,TOYOTA HSRで出場する標準機リーグ)、Educationリーグ(入門用リーグ)へと参戦し、OPLとDSPLでダブル優勝、実機リーグ2冠という快挙を成し遂げました!チーム史上最高の成績となりました!

また、Educationリーグでは、新人のみのチーム構成で、かつ、海外から参戦してきた今年の世界大会上位3チームが出場する混戦リーグにて、5位と健闘しました。

Hibikino-Musashi@Homeは、近年好成績を収めており、世界の強豪チームとして広く認知されています。

「RoboCup 2019」 3位入賞(世界大会)
「RoboCup Asia-Pacific 2019」準優勝(世界大会)
「RoboCup 2018」 優勝(世界大会)
「RoboCup Japan Open 2018」優勝
「World Robot Summit 2018」優勝(世界大会)
「RoboCup 2017」 優勝(世界大会)

今後ますますの活躍にご注目ください。

千鳥屋本家賞授与式を挙行しました

更新日:2019.08.20

本学では、学生グループによる自主的な課外活動として、技術系競技大会への参加や社会と連携した企画などを学生自らが提案・実施していく「学生プロジェクト」を支援しています。この取組みは、自主的かつ組織的に取り組むこの活動を通して、問題発見・解決能力を涵養し、自己の陶冶を図り、企業や社会で先導的リーダーシップを発揮できる創造的人材の育成を推進しています。

この「学生プロジェクト」に千鳥饅頭やチロリアンで有名な株式会社千鳥屋本家様にご賛同いただき、平成30年度から「千鳥屋本家賞」としてプロジェクト経費をご支援いただいております。

このたび、2019年8月7日(水)、戸畑キャンパスにおいて、代表取締役 原田実樹宜 社長にお越しいただき、今年度「千鳥屋本家賞」を受賞した学生団体『衛星開発プロジェクト(代表:大谷將壽)』に対し、授与式を挙行しました。

原田社長からは、本事業へのご支援に至るまでの経緯、また、お菓子作りには「お客様へ届けたい」という大切な思いがあり、同様に「モノ」づくりにおいても情熱を大切にしてプロジェクトに励んでいただきたい旨、激励のお言葉を賜りました。また、尾家学長からは、原田社長の学生プロジェクトへのご理解・ご支援に対して、心より感謝申し上げる旨の謝辞があり、その後に、受賞した学生団体がものづくりに取り組む実験室を、原田社長にご見学いただきました。

株式会社千鳥屋本家様には、昨年に引き続き、継続して「千鳥屋本家賞」として、本学の学生プロジェクトへのご支援をいただきましたこと重ねて御礼申し上げます。

【千鳥屋本家賞に選ばれた学生プロジェクト団体 】

・衛星開発プロジェクト

(人工衛星の設計・開発・運用を学部生主体で取り組んでおり、現在、超小型衛星「ふたば」を開発中!)

授与式の様子

学生に激励の言葉をかける原田社長

視察の様子1

視察の様子2

工学部オープンキャンパスを開催しました

更新日:2019.08.09

2019年8月2日(金)・3日(土)、戸畑キャンパスにおいて、工学部オープンキャンパスを開催しました。35度を超える猛暑の中、3,645名(昨年度3,298名)の参加がありました。

参加者は、自由見学で興味のある学科や研究室を見学し実際の実験機器に触れたり、学科ツアーに参加するなど思い思いに楽しんでいました。各種相談コーナーも盛況で、参加者は熱心に質問していました。また、保護者説明会では、各学科や入試について、またキャリアセンターによる九工大生の就職についての説明に、皆さん熱心に耳を傾けていました。参加者からのアンケートでは、「展示や設備が充実していてよかった」「先輩方が明るく優しくて、楽しそうだった」「九工大に入りたいという気持ちが高まった」などの感想が寄せられました。

また、総合型選抜(AO入試)説明会では入試で行うグループワークの模擬体験も行い、参加178名、見学169名のご来場がありました。参加者からは「他の人との意見交換の重要性がわかった」、「参加してみてAOの受験を考えるようになった」といった感想が寄せられ、保護者の方からは「これからの社会で求められる力がよく分かった」といった声も聞かれました。

多数のご参加ありがとうございました。

自由見学の様子

保護者説明会の様子

女子カフェの様子

グループワーク模擬体験の様子

情報工学部オープンキャンパスを開催しました

更新日:2019.07.18

2019年7月13日(土)・14日(日)、飯塚キャンパス(情報工学部)において、2019年度オープンキャンパスを開催しました。雨天にも関わらず、2,282名の来場がありました。

参加者は、研究室や施設を見学し、実験機器に触れたり、相談コーナーにおいて積極的に質問するなど、本学に対する関心の高さが感じられ、参加者からのアンケートでは、「施設や設備が充実していて、研究内容も面白そう!実際に体験してみてさらに興味が湧いた」「九工大生が生き生きとしていて楽しそうだった。とても親切だった」「大学の雰囲気がとても明るく、早く大学に行きたい!」などの感想が寄せられました。

また、総合型選抜(AO入試)説明会会場ではグループワークの模擬体験も行い、2日間で136名の参加がありました。実際の入試と全く同じ形式でグループワークを体験し、参加した方からは、「初対面の人と話せるかが不安だったが、意外と大丈夫だった」「AO入試への不安が解消された」などの感想が寄せられ、見学していた保護者の方々からは「子どもの新たな一面を見ることができ、参加してよかった」といった声も聞かれました。

多数のご参加ありがとうございました。

全学科研究室ツアー受付の様子

物理情報工学科学科ブース

知能情報工学科学科ブース

学科コース説明会

グローバルコミュニケーションラウンジ

総合型選抜(AO入試)説明会

RKBと包括連携協定に関する調印式を行いました

更新日:2019.08.01

2019年7月29日(月)、北九州市役所の記者会見室において、RKB毎日放送株式会社と九州工業大学・北九州市立大学・九州国際大学の各大学との包括連携協定に関する協定書調印式を行いました。

これは、ともに福岡県内に所在する組織団体として連携・協力することにより、地域の活性化、地域貢献、人材育成に寄与していくことを目的とした協定で、3大学とRKB毎日放送がそれぞれ締結するものです。

調印式では、まずそれぞれの協定書への調印を行った後、RKB毎日放送の井上良次社長、北九州市立大学の松尾太加志学長、本学の尾家祐二学長、九州国際大学の西川京子学長がこの協定の狙いや今後の展開に対する期待などを説明しました。

本学の尾家祐二学長からも、「九工大は学外のさまざまな組織との連携を積極的に図っており、このようなメディアの方々との連携は大変ありがたい。今後、多角的な面で連携を図っていきたい」と意気込みが述べられました。

この協定のひとつの成果として進められている、RKB毎日放送でスタートした番組「発掘ゼミ!!(毎週土曜日早朝6:30～)」では、7月27日(放送済)、8月3日に九州工業大学の「高齢化社会への取り組み」が放送されます。ぜひご覧ください!

尾家学長(左)、RKB井上社長(右)

協定書にサインする尾家学長

調印式の様子

記念撮影の様子

本学教員がフランクJ・マリーナ宇宙航行学賞を受賞しました

更新日:2019.07.11

本学大学院工学研究院 宇宙システム工学研究系 趙孟佑 教授が、国際宇宙航行連盟(IAF:International Astronautical Federation)から、2019年のフランクJ・マリーナ宇宙航行学賞を受賞する事が決まりました。IAFによると、このメダルは「宇宙航行学および関連する宇宙科学の研究を促進するために、利用可能な資源を最大限に活用することにおいて卓越性を実証した教育者に毎年送られる賞」となっており、趙 教授の長年にわたる新興国の宇宙人材育成の功績が評価され、今回の受賞となりました。

IAFは1951年に設立された世界的な宇宙関連団体の包括的組織です。加盟団体は、世界の主要な宇宙機関、企業、研究機関、大学、社会、協会、研究所、博物館を含み、68カ国に366団体にのぼります。なお、本学もIAFのメンバーです。

IAFは、世界有数の宇宙イベントである国際宇宙会議(IAC)を毎年開催しています。今年は、人類の月面着陸から50周年を迎えるという事で、2019年10月21日～25日にワシントンDCで開催され、趙 教授は記念講演を行い、その後、メダルを授与される予定です。なお、このメダルを過去にアジアで受賞した方々は次のとおりです。Kiran Karnik(インド、1998年)、Tetsuo Yasaka(日本、2006年)、およびMotocki Hinada(日本、1996年)。

趙孟佑 教授(前列右から4人目)

BIRDS-3 サテライト プロジェクト・ISSからの衛星放出に成功しました

更新日:2019.06.21

2019年6月17日(月)19時15分、日本、ネパール、スリランカ各国と共同で取り組んでいた衛星開発プロジェクト(BIRDS-3 Satellite Project)が開発した3機の衛星が国際宇宙ステーションからの放出に成功しました。

本学戸畑キャンパスで行われたパブリックビューイングでは、JAXAつくば宇宙センターの様子がYouTubeで中継され、それをみながら衛星放出時の喜びを分かち合いました。

また、同日19時45分過ぎにブータンでの電波受信、明けて18日(火)の7時40分過ぎには、本学内の地上局でも電波受信に成功しました。今後は、これまでのBIRDSプロジェクトに参加した国々を含む各国で衛星の運用を行っていきます。

公式声明

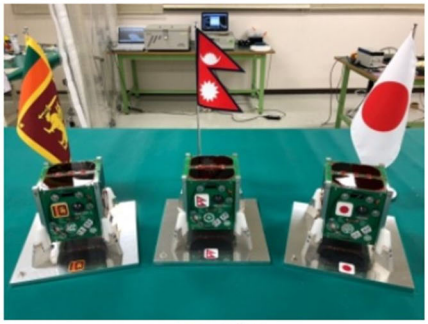
BIRDS-3衛星3機は、2019年6月17日に国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」から、無事に軌道上に放出されました。衛星放出にご尽力いただきました関係各位に深く感謝いたします。放出後は、各衛星からのビーコン信号及びパケットデータを受信し、3機全ての衛星が動作していることを確認いたしました。現在のところ、次の運用段階に移行する準備として、各衛星の健康状態の調査を行っています。衛星信号受信の過程で、世界のアマチュア無線家の方々に多大なるご支援をいただきましたことに深く感謝いたします。

ISSから放出される衛星3機

BIRDS-3メンバー

放出成功の瞬間

尾家学長@つくば宇宙センター


BIRDS-3衛星